

平成29・30年度 大島地区研究協力校「へき地・複式教育」 大和村立名音小学校 研究公開

児童が主体的に学ぶ力を身に付ける複式学習の在り方
～算数科を中心に基礎・基本の確かな学力の定着を目指して～

研究仮説

仮説1

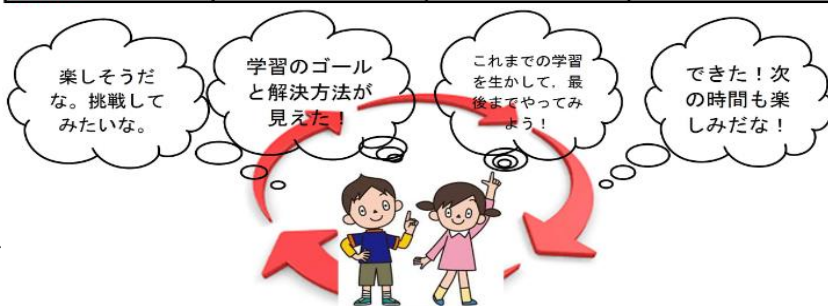
児童の**興味・関心を生む学習課題**を用い、**課題解決までの見通し**を明確にもたせることで、児童の主体的に学ぶ意欲が高まるのではないかと。

仮説2

児童がガイド学習等の「**学習スキル**」を身に付けることで、主体的な自力解決や習熟の時間の確保による学力向上が図られるのではないかと。

研究構造図

取り組みたいと思うような「 魅力的な学習課題 」の設定	主体的な学びを支える「 確かな見通し 」	主体的な学びを支える「 学習スキル 」の獲得	習熟の時間の確保による「 確かめ見届け 」
------------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	------------------------------



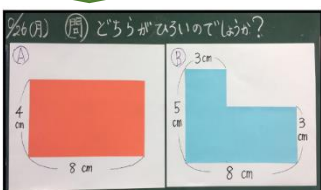
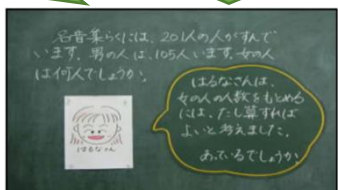
研究内容

魅力的な学習課題

生活に根ざした課題

エラーケースの提示

既習事項を生かし、立場を決定し、理由を説明する必要がある課題



「確かな見通し」

既習事項を生かして、課題解決の方法を考えさせる



「学習スキル」の獲得

学習のしつけ

鉛筆の持ち方 1分前着席

目標の明確化

問題文に線を引く めあてを立てる

山場の工夫

考え→理由の発表 時間以内に書く

確かめ見届け

自学での習熟 振り返りを書く

ガイド学習

タイマーを使い、進行ができる

「確かめ見届け」

奇数学年	学習課題の設定	学習課題の解決	学習のまとめ	練習・振り返り
偶数学年	練習・振り返り	学習課題の設定	学習課題の解決	学習のまとめ

学習過程のパターン化
確かめ見届けの10分間の確保

授業・分科会の様子と参加された先生方からの所感

1・2年生



5・6年生



- 学習スキルについて、各学年部ごとに達成目標を示すことで教員が授業の中で意識することができ、また、職員が入れ替わっても系統性のある指導ができそうである。
- 魅力的な学習課題の作り方やエラーケースなど、すぐに実践できる内容でありがたかった。
- 小規模校の長所・短所をよくとらえた研究がなされていると感じた。特に細かく記載された個人カルテや毎年入れ替わりの激しい職員の共通理解など、小規模校でしかできない、小規模校ならではの内容があり、参考になった。
- 自分と異なる考えが出た時、子供たちが受容的に受け止め、話し合いができるようにする必要があったと感じた。